

「さわふじの詩」に合わせて 手話ダンスが完成

国指定文化財の内閣御殿の門前にあるさわふじの木を歌った「サワフジの詩」（平敷静男作詞・石川しづか作曲）の、手話ダンスの振り付けが完成し、手話ダンスサークル「月桃」のメンバーが3月28日、町役場で披露しました。いいあんべー家などで活動している「月桃」のメンバーは町職員や町議会議員などが見守る中、台湾出身の歌手、林美伶（りんみれい）さんの歌に合わせて、完成したばかりのダンスを優雅に踊りました。

「月桃」の指導者、大城洋子さんは「内閣御殿が国指定を受けたこともあり、平和を願う『サワフジの詩』と手話の振り付けを活用して、町の活性化に寄与したい。西原町の平和の歌として、みなさんに歌って踊ってもらいたい。」と完成を喜びました。



新しい沖縄の「沖縄らしい」 住まいと工芸を提案

建築や工芸作品を通じて沖縄の新しい「住まいと工芸」を提案する「沖縄の空間を考える5人展」が3月3日から11日の間、町立図書館で開催されました。展示会には建築、木工、ガラス、陶芸、染色の専門家が製作した、沖縄の素材を生かした作品が展示され、沖縄の気候風土と共存する暮らしが提案されました。

木作品を出展した城間光雄さんは「作品は沖縄で植栽できる木を活用している。かつて沖縄にあった、自然と調和した暮らしを提案して、沖縄らしい住み方、生き方を感じてほしい。」と展示について説明し、「図書館という場所でこのような展示をするのは新しい試み。図書館の活用方法としても、これからの参考になれば。」と語りました。今回はロビーや会議室に加え、テラスなどが展示スペースとなり、これまでにない新しい活用がされました。



まちの話題

西原・与那原にまたがる マリントウンに町境の標識を設置

県と西原町、与那原町の関係者で構成するマリントウンまちづくり推進協議会（会長・古堅國雄与那原町長）が、マリントウン地内の臨港道路1号線沿いと県道糸満与那原線沿いの2ヶ所に両町の町境の標識を設置し、3月30日に除幕式が行われました。標識は、地域の住民などからの要望をもとに、マリントウン地域が両町にまたがるように設置されました。

また同協議会は「設置目的がおおむね達成された」として、2011年度で解散が決定しました。そのため、今回の標識設置が協議会の最後の事業となりました。



(株)沖縄ホームルガスパムを寄贈

(株)沖縄ホームル（比嘉昌治代表取締役社長）が創業50周年を迎えることを記念して、町にスパムの缶詰が寄贈され、3月1日に贈呈式が行われました。

桑江良一代表取締役会長は「35年間スパムを販売してこられた恩返しとして、寄贈したい。」と語りました。寄贈を受けた上岡明町長は「県内企業として、これまで私たちの食生活を支えてきた貴社からの寄贈に心から感謝したい。」とお礼を述べました。

今回寄贈されたのは50ケースで、子育て支援に活用するため、町内の認可外保育園の給食に利用しました。



「梅の香り」の10年の歴史を1冊に

字小那覇出身の作曲家、新川嘉徳が作詞作曲した「梅の香り」にちなんで毎年開催される「梅の香りうた遊び大会」が昨年の大会で10回を数えたことを記念し、主催する「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会が「梅の香り」歌碑建立10周年記念記録誌を作成しました。

この記念誌は、高齢社会対策の推進を図る事業等に交付される「長寿社会づくりソフト事業費交付金」を活用して作成されたもので、10回のうた遊び大会の歴史に加え、保存していた新川氏の資料がまとめられています。新里勝弘委員長は「記念誌は10年の集大成。これから自立して継続するため、また文化の保護・継承のために活用したい。」と完成を喜びました。

記念誌は町立図書館に寄贈されており、図書館で閲覧することができます。



地域の社会福祉の発展を誓う —第15回西原町社会福祉大会—

今後の福祉活動に取り組む決意を新たにし、さらなる地域福祉の充実を目指すことを目的に、第15回西原町社会福祉大会が3月13日、町中央公民館で開催されました。

大会の開催にあたって、新川善昭大会長（町社会福祉協議会会長）が「福祉ニーズや生活課題の多様化、環境が変化する中、一人ひとりが地域福祉活動に積極的に参加し、対応していくことが求められる。誰もが住みなれた地域で、安心して暮らせる社会の実現を目指したい。」とあいさつしました。大会では社会福祉の発展に貢献したとして、平安恒政さんをはじめ8名を表彰。24名の個人と5団体、14事業所に感謝状が贈呈されました。

また、福祉教育・ボランティア実践報告として、西原小と西原東中がエゴ活動や募金活動などの実践を発表。（財）沖縄県体育協会の天願匠さんは東日本大震災の被災地、岩手県釜石市と大槌町でのボランティア活動を報告し、「東北県人の生きる力を肌で感じた。これからも東北への支援を続けたい。」と語りました。



「いそいでも かならずかくにん みぎひだり」 —春の交通安全運動を実施—

交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、交通事故防止の徹底を図ることを目的に「平成24年春の交通安全運動」が4月6日から15日までの期間、実施されました。

「いそいでも かならずかくにん みぎひだり」が運動のスローガンになった今回は、新入学・進学シーズンに合わせて子どもを交通事故から守ることや、高齢者の交通事故防止などが運動の重点とされ、啓発活動が行われました。

4月2日に行われた実施説明会では、町立小学校に入学する児童415名に対し、西原町交通安全推進協議会からランドセルカバーが、浦添地区交通安全協会から反射材付体育着入れが贈呈されました。（写真上）

6日には西原町役場の駐車場で出発式が実施（写真下）され、上岡明町長が「かけがえのない子どもたちの命を交通事故から守ることがきわめて重要。関係機関や団体と連携して取り組みたい。」とあいさつしました。期間中は、通学路を中心に町内の38ヶ所で「新入学児童（生徒）応援 春の交通安全立哨運動」が開催され、自治会や企業などが参加して子どもたちに街頭指導を行いました。

